



23北生第996号
平成24年1月13日

東北管内各県農林水産部長 殿

東北農政局生産部長

小雨及び積雪に伴う野菜等の被害防止に向けた技術指導の徹底について

このことについて、別添写しのとおり平成24年1月13日付け23生産第5459号をもって農林水産省生産局農産部園芸作物課長及び地域作物課長より通知がありましたので、御了知の上、適切な対応が行われるよう、貴県内関係機関・団体、農業者等に対して御指導願います。

担当：東北農政局
生産部園芸特産課 宮野、小柳
TEL 022-263-1111 (内4430、4217)
FAX 022-217-4180

23北生第 096 号

平 24.1.13 日

東北農政局



23生産第5459号
平成24年1月13日

東北農政局生産部長 殿

生産局農産部園芸作物課長
地域作物課長

少雨及び積雪に伴う野菜等の被害防止に向けた技術指導の徹底について

昨年12月より、太平洋側では少雨傾向となっており、一方、日本海側では、積雪が平年比を上回る地域が多い状況となっている。気象庁発表の全般1か月予報(1月6日発表)によると、今後も引き続き現在の天候が続くことが予想されており、現在生育している作物への影響に加え、春野菜の播種・定植作業等にも影響が出ることが懸念される。

このため、冬から春にかけて出荷される野菜及び永年性作物である果樹・茶について、少雨及び積雪に対する被害を防止するため適切な対応が行われるよう、特に下記事項について貴局管内の都府県に対し、迅速かつ適切な技術指導の徹底を図られたい。

なお、園芸用施設の降雪・積雪対策は、「園芸用施設における降雪・積雪対策について」(平成23年12月22日付け23生産第5359号園芸作物課長通知)を踏まえ、技術指導の徹底を図られたい。

記

1 乾燥対策

【野菜】

現在生育している野菜については、用水が確保できる場合には、適切なかん水に努めるとともに、土壤の乾燥等を防ぐため、不織布・寒冷紗等の被覆資材によるべたがけを行う。

これからは種・定植する野菜については、は種・定植前に土壤の保水力を高め、また、根を深く張らせるために、深耕、有機物の投入等に努めるとともに、マルチ等により土壤水分の蒸発防止に努める。

施設栽培においては、コナジラミ類、ハダニ類、アブラムシ類、うどんこ病等乾燥時に発生が多くなる傾向の病害虫について、その発生動向に十分注意し、早期防除に努める。



【果樹】

降水量が今後も少ないと予想される地域では、敷わら、敷草等によって土壌の乾燥を防止し、保水力を高める。

特にかんきつ類は、低温により樹体の水分欠乏を助長し、落葉やす上がりの発生する可能性があるため、土壌の乾燥度合いに応じて、用水の確保に努め、適宜かんがいを実施する。

【茶】

茶園に敷草を行い土壌水分の蒸発を防ぐとともに、用水が確保できる場合には、適切なかん水に努める。

なお、改植・新植後間もない幼木園や、昨年、台切りや中切り等の剪定を行った茶園においては、少雨の影響を受けやすいと考えられることから、乾燥対策は、これらの茶園を優先して行う。

2 雪害対策

【果樹】

(1) 降雪・積雪中の対策

安全が確保できる範囲で、樹園地を見回り、除雪を行う。雪に埋まった枝は沈下しないうちに可能な限り掘り起こす。掘り起こしが困難な場合、スコップで雪に切れ目を入れたり、樹冠下の雪踏みを行う。

園芸用施設を使用している場合は、施設内の温度を高め、積雪の自然落下を促進するほか、ハウスの屋根の補強材や支柱等を設置する。また、安全が確保できる範囲で、屋根の雪下ろしや施設周辺の除雪を行う。

施設の破損、倒壊等が生じた場合には、安全に留意しつつ、早急に修復を行いハウス内の温度の確保に努める。

(2) 雪解け時期の対策

最大積雪深に達した後、数日間の晴天が見込まれる時期を見計らい、融雪剤を散布する。

安全の確保に留意しつつ、樹園地を見回り被害状況を確認し、樹体の損傷の程度に応じて、ボルト等を使っての損傷部の癒合や、改植を検討する。

損傷した樹体は病虫害の被害を受けやすいので、発生動向に十分注意し、適切な防除に努める。